

ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線アドバイザーボード（第6回）

議事要旨

1. 日時

令和4年6月29日（水） 16:00～17:30

2. 場所

WEB 会議

3. 出席者（敬称略）

（1）構成員：

飯塚 留美（一般財団法人マルチメディア振興センターICT リサーチ&コンサルティング部シニア・リサーチディレクター）、櫻田 洋一（CQ 出版社取締役兼 CQ ham radio 編集長）、高尾 義則（一般社団法人日本アマチュア無線連盟会長）、寺田 麻佑（国際基督教大学教養学部上級准教授）、藤井 威生（電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター教授）、藤原 洋（株式会社ブロードバンドタワー代表取締役会長兼社長 CEO）、三木 哲也（一般財団法人日本アマチュア無線振興協会会長）

（2）総務省：

豊嶋電波部長、荻原電波政策課長、中村移動通信課長、伊藤移動通信課課長補佐

4. 議事

（1）開会

（2）議事

- ・ワイヤレス人材育成のためにアマチュア無線を活用するにあたり有用な事項、アマチュア無線界が取り組むべきこと等について
- ・提言書（案）について

（3）閉会

5. 議事の経過

- ワイヤレス人材育成のためにアマチュア無線を活用するにあたり有用な事項、アマチュア無線界が取り組むべきこと等について、構成員から次のような意見があった。
- 社会貢献活動を行う上で心得ておくべきこと、自治体等との連携等、アマチュア無線家として活動する上で必要な知識について、民間資格の導入も考えられる。
- 青少年の育成のために、学校・先生への支援が必要ではないか。
- アマチュア無線界として、これまで青少年等に向けて実施してきた、ARISS スクールコンタクト、体験運用等の取組について改めて積極的に取り組み、また、足りない部分を検討しつつ取り組んでいくべきと思う。
- ARISS スクールコンタクト・体験運用により免許を持たない方、特に若い方がアマチュア無線を経験する機会は増えており、新聞で取り上げられることも増えてきたと思う。この機会をアマチュア無線界だけでなく

他業界含め多くの方の協力を得て実施していく必要がある。

- 今の若い人は、何かに取り組む際に、単に趣味というだけでなく、将来を踏まえて取り組む・取り組まないについて、判断しているようであり、念頭においておく必要がある。
- 国際アマチュア無線連合(IARU)が自己分析評価を実施しており、ここでのアマチュア無線の弱みを見ても、今回の議論での国内と同様の環境にあると感じられる。日本でもアマチュア無線の今後の方向性を考えるために自己分析評価を実施するのも、一つの方法と思う。
- アマチュア無線に興味を持ってもらう人を増やすために、総務省の後援なども活用したイベントや表彰を増やすこと、若者など向けに無料のイベントを多く企画することもよいと思う。
- 中学・高校の実験、大学の研究について、制度面と自主的な取組の両方を合わせて使いやすくしていくことが重要と思う。教育用の補助教材・キット等ができることよいのではないか。
- 無線機が高機能になっており、初心者は免許を取っても操作が簡単には自らできないところもあり、アマチュア無線界でどう取り組むかを考える必要がある。

○提言書（案）について説明。

○構成員から次のような意見があった。

○電波を発信することの面白さと同時に、電波を使う責任を持たせることも必要。

○制度は簡素化しすぎず、上手く人材育成に使っていくことも必要。

○移動体通信・放送局等で活躍しているプロフェッショナルとアマチュアとの交流の場があるとよいと思う。

○アマチュア無線のサークル・部活動への勧誘やアプローチ、アマチュア無線を効率的に知ってもらえる・関心を持ってもらうための活動について、これらを集めて集合知としてマニュアルができると、面的な普及活動、体験活動の機会拡大に繋がるのではないか。

○初心者の方がマナーの悪い運用者などのためにアマチュア無線を続けられないこともあり、電波利用環境の確保が必要。不法局・違法局対策はアマチュア無線界も自主的な取組を行うべきであり、総務省と連携して進めるのがよいのではないか。

以 上